

特集

福祉・介護における
“クオリティ”（支援の質）
を考える

これからの介護の質とは…

これまで「おたがいさん（神奈川県藤沢市）」
「木守舎（鳥取県鳥取市）」「さかえまち（東京都日野市）」
「ひなた（北海道上川郡美瑛町）」
での取り組みが紹介されてきた。

これらの事業所の取り組みを踏まえながら、
これからの介護の質を考えてみたい。

（ポイント★その1） 本人主体からブレない

介護保険制度が施行され介護保険事業がスタートすると、事業を行うことやサービスを提供することが目的になってしまうケースが増えてきた。これは、当初の目的の「本人を支える」ことから、「介護保険サービスを利用する人を探す」ことに目的が入れ替わり、サービスを利用することが目的化してしまうことである。

そもそも制度や事業は、本人の自立した生活や自己実現のためのツール（道具）である。しかし現実には、支えるべき本人の思いや希望よりも、周囲の事情や理屈が優先されてしまい、サービスに本人の生活を合わせる事が当然のこととして押し進められていった。その結果として周囲の都合により、本人への支援の量や質などが決まってしまう、そのことが常態化してしまうこともある。

認知症になっても、障害があっても、本人がどこでどんな人生を描き、全うしたいのか。

真ん中に据えるべきは「本人」であり、すべての支援は本人発で始まることが重要である。



（ポイント★その2） 本人の「声」をチームでカタチに

本人の声をカタチにするということは、本人の言っていることをそのまま受け取るのではなく、その発している言葉や表情、しぐさ等をサインやシグナルと捉え、潜在的な思い（ニーズ）を見据えることである。

認知症という症状を持っているからではなく、我々であっても口に出すことすべてが本音ではない場合も多い。自分が思っていることと正反対のことを言うこともあれば、周囲に遠慮をして自分の意見ではないことを言う、伝えたい言葉が思いつかず、ニュアンスの違う言葉で表現することもある。また、言葉にすることで、本当に伝えたかったことが、別なことであったと気が付くこともある。それほど言葉で発している表現は、そのこと自体がすべてを表しているのではなく、見えにくいものである。

特に認知症の高齢者であれば、事業所に行きたくないのはなぜなのか？単に自分の行くところではないかと思っただけかもしれない。また、自らの役割や居場所がそこにはないことを知っているからかもしれない。答えは本人だけが知っている。

専門職はこの「声にならない声」をカタチにすることができるがどうかの専門性が問われている。カタチにすることは、客観化することであり、思いを代弁することである。たくさんの解釈（主観）を重ね合わせることで客観化し、本人がそのとき何を考え思っているのかをひもとき代弁する。関わることは、ひもときいた代弁を検証することでもある。ミーティングで「そわそわするようなどときにはトイレに行かせて欲しい」という仮説に基づき、トイレ誘導を試みるとまったく排泄の様子はない。ハズレである。であれば次なるアイデアを出し、またチャレンジしてみる。正解はその場その時で変わることもある。

だからこそ、日々思いをカタチにすることが必要なのである。「声」をカタチにすること

は、本人の気持ちに思いを馳せると同時に思いをチームで共有することでもある。

（ポイント★その3） 「魔法のふりかけ」を持つ

都市部は商店など生活に便利だが、近隣との人づきあいが希薄である。一方、田舎では商店などが少なく、買い物は車で隣の地域まで行かないといけませんが、近隣との人づきあいが濃いなど地域によってそれぞれ特徴がある。都市は田舎のいいところに、田舎は都市のいいところにそれぞれ憧れるのである。しかしながら、ないものねだりをして、ないものはない。これからはないものを嘆くのではなく地域にある強みを生かし変化させることが大切なのである。

例えば鹿児島県龍郷町では、気になる人の夜の見守りを、夜間にウォーキングしている方々にお願いしている。夜間の気になる人の家のカーテンは閉まっているのか、電気が付けっぱなしになっていないか、など気にかけている人への安否確認を、民生委員や近隣の人たちだけに任せていない。地域推進委員会を中心に「夜間の一人暮らしの人の安否確認」という課題をみんなで話し合った。その中で、地域では夜間に健康のためにウォーキングをしている人やグループがあることがわかった。夜のウォーキングのついでに気になる人の家の安否確認をお願いしたのである。

安否確認を新たに近隣に作ることも重要であるが、自らの趣味の延長線上に「おせっかい」をふりかけて「ついで」に安否確認をしてもらうという今あるものに変化（追加）を加え、実現した一例である。

「おたがいさん」の立地や農業の豊かな経験を持っている高齢者、「木守舎」のオリジナルブレンドコーヒー製作の発想も、そもそも持っている力を活かす取組みである。

高齢者の暮らしの支援や地域での取組みを継続するコツは、できないことに焦点をあてるのではなく、できてほしいこと、能力を持っていることに焦点をあてる（ストレングス）ことで無理せず負担に感じず気軽にでき、そもそもあるものを伸ばし、無いものはあるものへと変化させるために「魔法のふりかけ（強みを活かすアイデア）」をふりかけることである。

まとめ

高齢者の地域での暮らしでは、そもそも介護保険サービスを利用することを目的としていない。高齢者はこれまでどおり生活したいだけなのである。元気なうちは、自分でしたいことは自分でし、できないことが増えてきても自らの力で何とかしたいと考えている。自由気ままに過ごし、畑仕事をし、町内の清掃活動にも参加したいと思っている。できれば、誰の手も借りずに最期を迎えたいとも思っている。しかし、年を積み重ねるとともに、できていたことができなくなり、誰かの手を借りずには自宅での生活を維持できない時期もくるが、できる限り頑張ろうとする。本人からすれば、すでに「頑張っている」のである。ただし、当然、福祉や介護の専門職ではないことから、やり方がマズい場合や、やみくもにやっていることも多く、努力していても実現しないこともある。それでも何とかしたいと思うからこそ、勇気を出してお隣さんへお願いし手を借りるけれど、どこかでお返ししたいとも思っている。

高齢者自身から見れば、動かない手を動かし、伸びない腰に手を当てて、それでもどうにもならない時は、民生委員や行政へ相談し、公的な支援やサービスがないか、やむにやまれず相談するのである。

専門職は、その努力を無駄にしないといけない。簡単にサービスをあてがい、時間短縮のために手を貸し、効率という名のもとに提供したいことをサービスという名の「援助」として押し付けてはならない。はじめに必要なことは、できないことを把握するだけでなく、できることやできなくとも頑張っていることを認め、尊重することである。

これからの介護の質とは、本人のできないことを代わりに行う（＝援助）ことも重要であるが、できてほしいことを手助けするような、軸足を援助者側ではなく本人に置き支援することが必要である。すなわち、高齢者「に」何をするかではなく、高齢者「と」何をするかが問われる。

山越 孝浩（やまこしたかひろ）
全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
事務局長

理事からのメッセージ



私は、昭和53年8月に筒井書房を立ち上げ、福祉・保育・介護関係を主とした出版と販売等を行ってきました。一番の特徴は、福祉関係の研修会等での展示販売で、参加者・主催者と意志を共にし、選書・販売をしてきました。

私の運営方針は、「思いや生き方をダイレクトに現す運営」。個人でありながらも、強い想いは集団やその行いを変えることができるということです。後進には、法人の理念を大事にしつつ、個々の思いをしっかりと発揮してもらいたいと思っています。

現在は、長年共に活動してきた仲間達の近くで、ゆったりとした生活を送っています。

筒井 眞六（代表理事／地域生活サポート研究所・代表）
※代表理事3人のうちの1人です。

徒然なるままに…

今年の十五夜は9月27日の日曜で、「仲秋の名月」として楽しませて頂いた。最も感動したのは、十六夜「いざよいの月」、翌日の満月で、地球と月の距離が最も近く、通常の満月よりも大きいことから、近年では、スーパームーンと呼ばれているらしいが、本当に雲ひとつない空に、大きなお月様が中空に上り幻想的な世界を醸し出していた。

近年は月曜からの酒席は極力控えているが、この日はたまたま友人達と、東金駅前の大衆居酒屋で楽しいひと時を過ごし、愛犬と散歩に出たのは、22時頃、最も美しいお月見で、何か特をした気分になった。

先日、五根の家の正社員ミーティングと生活支援課、ぼけっと・鶉嶺（児童）のミーティングに出席し、直近の課題や懸案事項について協議をさせて頂いた。五根の家は認知症グループホームと小規模多機能ホームの併設型であり、それぞれ機能としての特性があり、職員の配置は基本的に各所属に分けてあるが、両部署とも職員配置が十分ではないので、適時・適切なタイミングで、双方助け合い、お互い様の気持ちでなんとか日々を回している。これには当然限界があるので、速やかに職員の確保・補充に努めなければならず、この様な厳しい状況の下でも、全てのスタッフはモチベーションを落とすことなく、ご利用者の方々の心に寄り添い、常に笑顔で接している。施設を預かる者として、このことをしっかり受け止め、手を尽くして改善を図って行かなければならない。

「子ども支援センター」、「ぼけっと」、「鶉嶺（児童）」は、障がいのある子どもへの、デイサービス、日常生活・集団生活支援や放課後デイサービス事業等々、総合支援事業を行っている。この会議にも毎回出席させて頂いているが、スタッフの方達はいつも「ハツラツ」としていて活気がある。

リーダーが一人ひとりの意見を無理なく引き出して、各自の話を聞いていると、視点の違いこそあれ、子どもたちへの優しさと、自分のスキルを更に高めて行こうという自然な思いが感じられる。

最も印象に残ったのは、一人ひとりが「人間力」を高めて行きましよう確認し合う、人として最も大事なことで感慨深いものであった。

「人間力」を高めるには、目の前の様々なことに関心を持ち、自分と人に真摯に向き合うことが大切なことであろう。ドイツの物理学者、アルベルト・アインシュタインの言葉に「私は頭が良いわけではない、ただ人よりも長い時間、問題と向き合うようにしているだけである。」とあり、日々のたゆまぬ努力が良い結果を生むのではないか。

最後に、全施設を通じ、この猛暑の時期、体調を崩すスタッフもなく、ご利用者がケガなく過ごせたのは、全てのスタッフの頑張りによるものと、改めて、厚く感謝を申し上げます。

（齊藤 操／総合施設長）

各種イベント&活動情報

東金市 きもの地サロン

着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。

開催日：10月26日（月）

11月10日（火）

11月23日（月）

興味のある方は、連絡ください。鶉嶺の家（50-0285）

東金市 ヨガサロン

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

開催日：10月21日（水）

11月4日（水）

11月18日（水）

興味のある方はご連絡ください。ありさ（50-0362）

東金市 穂垂るの会

介護している方々が集まって日々の苦勞話等を気軽に本音で話し合う会です。

日時：11月12日（木）

13:00～16:00

会場：ふれあいセンター

経費：200円（お茶代）

主催・連絡先：穂垂るの会・井上（090-7171-1701）

山武郡 ときがね・街かど福祉塾

2011年2月より休止していた、「ときがね・街かど福祉塾」を4年半ぶりに再開いたします。今回のテーマは、地域共生ケアです。高齢者ケアを軸として、多様な人達との関わりから地域共生ケアを考える会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

（問合せ先：ちば地域生活支援舎 Tel:0475-53-3630）

第1回「地域で誰もが普通に暮らすとは」

日時：平成27年10月31日（土）17:30～20:30 会場：東金市中央公民館・研修室

講師：山越孝浩（全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会・事務局長）

荒木隆一（ロザリオの聖母会 ナザレの家あさひ・所長）

第2回「共に支える介護とは（高齢者×子ども）」

日時：平成27年11月23日（月）17:30～20:30 会場：東金市中央公民館・研修室

講師：加藤忠相（あおいけあ・代表）

森田マキ（また明日デイホーム・寄り合い所・小さな保育園虹のおうち・代表）

第3回「共に支える介護とは（高齢者×子ども）」

日時：平成27年12月18日（金）17:30～20:30 会場：東金市中央公民館・研修室

講師：阪井由佳子（にぎやか・理事長）

鈴木翔太（やちまた放課後クラブ ぶらんこ・施設長）

第4回「共に支える介護とは（高齢者×生活困窮者）」

日時：平成28年1月15日（金）17:30～20:30 会場：東金市中央公民館・研修室

講師：高橋信也（冬月荘）

沖山陽子（セブンエイチ）

千葉県 地域密着型サービス事業所・キャリアパワーアップ講座

◆対象・定員 千葉県内の地域密着型サービスに所属する介護職員及び管理者・中堅職員 30名

◆主催・問合せ先 NPO法人ちば地域密着ケア協議会（Tel:043-244-2601/担当：大石）

(1) 介護・福祉職員のビジネスマナー研修

日時：平成27年10月23日（金）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：中川清隆

(2) チームワーク向上研修

日時：平成27年11月24日（火）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：菊地みほ

(3) リーダーシップ向上研修

日時：平成27年12月14日（月）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：山郷政史

(4) モチベーションアップ研修

日時：平成28年1月18日（月）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：山郷政史

(5) クレーム対応能力向上研修

日時：平成28年2月2日（火）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：山郷政史

(6) 業務改善能力研修

日時：平成28年2月18日（木）

13:00～17:00

会場：千葉県経営者会館・研修室

講師：山郷政史

法人内の各事業所から

鶉嶺の家（高齢者・障がい者）

今年も食欲の秋を迎え、ついつい食べ過ぎてしまう今日この頃です。

鶉嶺の家では利用者さん、そのご家族からおいしいお米や野菜、果物を毎年頂いていて助かっております。いつもありがとうございます。食べる側はもちろんですが、作るスタッフにも力が入り、作り過ぎてしまう時も…。そんな時、頼りになるのは男性スタッフよりも女性スタッフと20歳のH君の胃袋なのです。(笑) H君はご飯やおかずを大盛りにしても足りないようで、台所でおかわりを探しています。時には外出しているスタッフの食事

もつまみ食いしてしまうことも…(^_^;) 高齢の男性利用者Kさんも負けてはいません。たまにご飯を残すこともあります。おかずは綺麗に平らげます。たまに『もっと食べようかなあ』と悩んでいます。元が結構大盛りなんです。男性スタッフのTさんは女性スタッフの半分の量でお腹いっぱいになってしまい、よくお母さんたちに『もっと食べなさい!』とご飯をてんこ盛りにされています。頑張れ、Tさん!

みなさんは食欲の秋ですか? 読書の秋ですか? 鶉嶺はもちろん… (笑)

鶉嶺の家（児童）

未就学の小さな子どもがたくさんいて、チヨロチヨロしている鶉嶺の家。大きな子たちはやっぱりチビちゃんたちが可愛いようです。中学生のAちゃんは力持ちで怖い時もありますが、小さな子が大好きで、じーっと見つめて頭を撫でたりして触れたがります。高校生のB君は笑顔で近寄り、頭を撫でてみたり抱っこをしたがります。車イスで過ごしているCちゃんは、お気に入りの子の名前を覚え、見かけると名前を呼んで声をかけたり、膝に乗せるとニコニコ満面の笑みを見せてくれます。チビちゃんが隣の鶉嶺の家(成人)に遊びに行くと、利用者さんたちはパッと花が咲いたよ

うに笑顔を咲かせます。スタッフも含め、癒し効果抜群です。

癒しと言えば、普段はぼんやり真顔の事が多いD君が、先日とってもご機嫌がよく、周りの遊ぶ声や音を聴いて、大笑いしていました。近くにいたE君もつられて大笑い。E君は自らD君の正面に体を向け、2人顔を見合わせて笑い合っていました。2人共、自力で歩くことや会話は出来ませんが、私たちには分からない何かで心が通い合った一時だったのでしよう。同じ空間に居られた私は、とっても嬉しくなりました。今月一番の癒しでした。

子ども支援センターぽけっと

残暑も終わり、すっかり秋めいてまいりました。朝晩のみならず、日中も涼しくなってきましたが、まだ半袖で過ごしている子どもたちも見受けられます。そんな中でも、ひときわアクティブなA君。戦いごっこが好きで、よく男性スタッフを相手にしています。先日もスタッフと戦っていたのですが、熱が入り過ぎて暑くなったのか…突然着ていたTシャツを脱ぎだし、上裸の状態が続けようとしていました(^_^;) さすがに服は着てもらいましたが、

涼しくなってきたことを忘れてしまうような一場面でした。

裸で思い出しましたが、今ぽけっとで『安心して下さい、はいてますよ!』でお馴染みの某お笑い芸人の真似をする子どもがいないことに少々驚いています。『ダメよ～、ダメダメ』『ラッスンゴレライ』等はすぐに取り入れて真似をしている子どもが多かったのですが…流行ネタなら何にでも飛びつくわけではないようです。(笑)

サポートセンタースピリッツ

移動支援などのガイドヘルプで昼食をはさむ場合、「何が食べたいですか？」と伺うと「ステーキ」「肉」という返答や「ステーキ宮」という具体的な返答、お弁当を選んでいただく場合も「ハンバーグ弁当」や「焼肉弁当」とお肉系を選ばれる方が多いようです。

実際、お肉を食べると顔がほころび幸せそうな顔をして食べている様子が伺えます。普段は、ひよっとすると食事制限などがあり、なかなか食べたくても食べられないお肉が外

食時は食べられるという幸福感。お出かけの中で食事を一番楽しみにしている方もたくさんいらっしゃると思います。その中で「何が食べたいですか？」と伺うと「干葉でサラダ食べた〜い。」と答えた方がいらっしゃいました。答えて下さったのが20代の男性だったので、心の中では、「なぜ、サラダ?!」と、ちょっと驚きました。でもやはり野菜も大切なので、みなさんお家では健康のためにもバランスの良い食事をして下さいね(^O^)

街かど福祉相談室ると

おかげさまで“ると”は立ち上げから2年半が経とうとしています。今年度はサービスを受ける際、計画が必須となったことから新規の方が随分増えました。問い合わせは電話が多く、その後お会いする約束をするのですが、お会いするまでがドキドキです。相手の方も同じかもしれませんが、どんな方だろう?と緊張します。お会いできて良かったな、お話が聞いて良かったなと思い、思われることを目指していますが、実のところまだまだ

そこまで及びません。ただ話をするのではなく、どんなことで困っているのか、何を望んでいるのか、別の悩みがあるのでは等受け止めることは多岐にわたります。るとで解決できないことはしかるべきところにつなげていくこともあります。「あそこに相談してみよう」「わからないからちょっと聞いてみよう」と気軽に皆様から声をかけていただけるような存在になりたいと思っています。

ハンドワーク

9月に入り、学園祭や文化祭といったイベントの多い時期の前となりました(*^_^*)

ハンドでは、イベントに向けてお菓子の試作品を作ったり、秋らしい色のエコクラフトバックや小物入れ作りをしています。また、最近では牛乳パックとエコクラフトを使ってエコクラフトボックスというものも作っています。(右画像)そんな中で、いつもエコクラフト作業に参加していないSさんが母親からの注文で、大きなエコクラフトの入れ物を作ることにチャレンジしています。翌日から配色

を気にしたり、編み方を質問したりとやる気満々で取り組み始めています。しかし、なかなか集中して取り組むことが難しく空回りする事がしばしばあります。途中で投げ出したりすることなく力強い「やる」の一言でめげずに取り組んでいます。



かばの家

9月に入ってから雨の日が多かったですね。気温もグッと下がり秋らしくなってきましたね。パン作りも通常に戻ってきました。また、長い間お休みしていた武田さんが7日(月)から戻ってきました。体調の事を考えてしばらくの間、月・水・金の週3日間だけの登所となります。ちょっと痩せたようですがパン作りは今まで通り頑張っておりました。気温が下がってくると生クリーム入りのカバさん

パンとチョココロネパンが復活します。また、カボチャ・サツマイモ・くりなど季節限定のパンが始まります。ぜひ、ご賞味ください。さらに、秋は学校祭に出店する予定です。袖ヶ浦・東金特別支援学校・日吉台小学校などです。今年は参加できる学校が減ってしまいましたが、たくさん作って多くの方々に食べてほしいと思います。

ありさ

先日『岩崎天神祭典』という地域のお祭りがあり、参加しました。

半纏を羽織り、帯を締め、豆絞りをかぶり、いざ出発です！！HさんOさんは神聖な木を担ぎ、大きな声で『セイヤサア！！』と大活躍。普段はお尻が重くてなかなか動かないAさんやTさんも、この日ばかりはニコニコ笑顔でたくさん歩きました。また、車イスで参加したKさん3名は、普段外での活動がありません。初めての祭りで、『楽しかった』と。そして、ありさを代表するお祭り男Hさん！！本領を発揮し、踊りにも飛び入り参加。

お囃子に合わせて踊るHさんの腰の振りが素晴らしい！と評判に！？

突然の土砂降りにも遭いましたが、地域の方々と触れ合うことができ、とてもいい経験になりました!(^)!



五根の家・グループホーム

9月に入って長雨が続いておりましたが、後半からようやく秋晴れが見られるようになりました。お天気が良かったある日の事。みんなで心地よい秋の季節を感じながら、ピクニック気分を味わおうと全員で中庭のウッドデッキに出て昼食を召し上がる機会を作りました。AさんとMさんでおこわのミニおにぎり作りをされ、他にもタコさんウインナーや

エビフライ等を作ってみんなで頂きました。普段食が細いYさんも『おいしい、おいしい！ご飯はもうないの！？』とたくさん召し上がっていました。男性利用者のIさんは女性スタッフに気を遣って『お前は食べないのか！？』と、あ〜んとタコさんウインナーを口に運んでくれました。時々こんな機会を作るのもいいですね(*^_^*)

五根の家・小規模多機能ホーム

9月21日は敬老の日で、五根の家でも昼食でお祝い膳を作り、ささやかですが手作りの敬老カードをみなさんにお配りしました。

Tさんは、回覧板で地元区内での敬老会のお誘いがある事を近所の方から教えてもらい、スタッフの声掛けで参加されました。たくさんのお祝いの食事が振る舞われ、お囃子や三味線、お琴、踊りなどをご覧になりました。Tさんは、最近、知人・友人との交流が少なくなっていました。敬老会を通じて久しぶりにたくさんの方とお会いして声を掛けられました。付き添ったスタッフに「あの人は常会の人で踊りが上手なんだよ〜！」等いろいろ

教えて下さいました。「こんなのがあるなんて知らなかったよ。また来たいね！」と喜んでいました。会場では、歩行のお手伝いや座椅子・布団等を用意して下さい、Tさんも心地よく過ごすことが出来ました。敬老会の役員の方々には感謝でいっぱいです！ありがとうございました。



『地域福祉情報・相談センターりんく』

営業：10：00～20：00

場所：東金ショッピングセンター「サンピア」内1F
(※ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、ボランティア・
市民活動に関する情報提供、相談等

★福祉・介護・子育て等に関する情報の
掲示・配布をご希望の方は、本会
までご相談ください。

法人事務局：0475-53-3630
(月～金/10:00～17:00)



高校生・大学生アルバイト募集

♪主な内容

- ①子どもの遊び相手
- ②お年寄り障がい者の話し相手
・外出の付き添い
- ③食事づくり
- ④障がい者の就労活動の手伝い

♪曜日・時間

月曜日～日曜日の可能な曜日
8:00～21:00の間で可能な時間帯

♪時給

高校生・大学生 850円～

♪対象者

高校生以上の方ならどなたでも可能です
(※未成年の方は、ご家族の同意が必要です。)

♪条件

週2回以上働ける方

♪活動場所

主に、東金市内での活動になります。



ちばしゃ通信
(Vol.12)

発行日：2015年10月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

- ・“ちばしゃ通信”も、おかげさまで12号となりました。「ちば舎の中での出来事、関わりから感じ・見えてきたことを伝えたい!」、「福祉・介護・保育等の仲間達の質の高い実践を知ってほしい!」、また、「残念ながら、一緒に活動することが出来なかった仲間やお世話になった利用者や地域の皆様への報告したい!」との思いから発行してきました。まだまだ、中途半端ですが、さらに充実を図りますので、今後も、よろしく願いいたします。(Jerry)
- ・先日五根の家で敬老会に参加させて頂きました。皆さん手作りカードをととても喜んでくださって嬉しかったです。一緒にお祝い膳も食べさせて頂き、なんだかほっこりした気持ちになることができました。(W)